第 2015-41 号

恵みと真理のニュース

2015 年 10 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私と旦那を救ってくださり、礼拝の喜びと主の中で新たに生きる喜びが溢れるように導いてくださった神様に感謝します

私は 21 歳に結婚しました。旦那の年は 27 歳で２代一人子で学校を卒業してからすぐ結婚しました。何も知らずに結婚したら舅姑は娘より愛してくださいました。しかし、結婚して次の年、舅が癌で亡くなりました。姑も体が痛かったです。自然で全ての家事は私がしなければならなかったです。祭祀の料理も全部任されました。家族が集まるとみんな笑って幸せに見えましたが、私は全く楽しくなかったです。理由もなく生きる事が空しくなり悲しく寂しかったです。

そのように　２７年が経ってある日から私の人生が変わり始めました。誰か誘わなくても自ら教会に行きたいと思いました。そのごろ、勤務している職場で恵みと真理教会に通う安手執事が恵みと真理ニュースもって来て伝道しました。とても嬉しくて執事の話が終わる前に主日の礼拝時間が何時ですかと聞きました。執事は親切に礼拝時間を教えて聖書をプレゼントしてくださいました。すぐ主日の礼拝に参席しました。

教会に来て礼拝を捧げたら、何も知らなくて初めて参席した礼拝にも関わらず御言葉と聖霊の恵みをたくさん受けました。神様の恵みで教会へ来ると毎週が楽しみになり今週は“どんな御言葉をお話してくださるかと考えました。”御言葉の恵みを愛するようになり、恵みを求めると礼拝時間が楽しかったです。職場を通うので平日は礼拝に参席することが難しかったです。参席したい心で平日礼拝の牧師の説教は CD で聴き御言葉中心、礼拝中心の生活をするように努力しました。私の状況をしている区域長が区域の礼拝の時間を調節してくださり朝９時前に礼拝を捧げたり、それも出来ない時には昼休みを利用して区域礼拝を捧げました。

そのように礼拝中心の生活で信仰が成長して神様の御心を分別するようになり、神様が一番嫌いのは偶像崇拝である事を知るようになりました。偶像崇拝が大きい罪であり災いであることを悟りました。それで、祭祀からしないように神様に祈りました。私の家庭で行なう全ての祭祀がなくなるように切に祈りました。そしたら、驚くな事が起こりました。神様が祈りに答えてくださって仏教信じていた旦那の姉と旦那の心が動きました。神様が下さった信仰と弾力と勇気で家族に福音を伝えこれから祭祀をしないと宣言しました。神様は旦那の姉の心を変えてくださり私の信仰を認めるようにして家ではもう祭祀をしないようになりました。 ハレルヤ！神様に栄光捧げます。神様は続けて私の家族で働いてくださいました。これから祭祀はしなくなりましたが、旦那と二人の息子が主を受け入れなくてさ迷っているので切ない心で祈りました。神様は子供が切に祈る心の期待と希望の祈りを神様の時になると神様の方法で必ず聞いてくださることを確実に体験してくださいました。

去年１２月に旦那が急に膝の痛みで手術を受けました。教役者と聖徒達は旦那が一ヶ月間入院して手術と治療を受ける間よく来て祈ってくださり慰めてくださいました。教役者と聖徒に深い感動を受けました。一回も教会へ行かなかった旦那のため病気が治療されるように祈る姿を見て旦那の心が開かれたのです。旦那は教役者の祈りと神様の恵みに感激を受け１月に新しく信者として登録しました。ハレルヤ！そして旦那も主の子供になって毎週礼拝を捧げ、神様の恵みの中で信仰生活をしています。私はまだ信仰の年がまだ子供なのです。しかし、神様は恵みを与えて下さりこの恵みがどれほど大きいか言葉では表現できないくらいです。聖徒というこの恵みが限りない栄光をです。それで喜んで神様に感謝します。長い間神様を知らなくて信じなくて浪費しましたが、これからも主から救われ以前の習慣を捨て神様の義と心理の清さで新たになりとても感謝する事です。

このように私を選んでくださり、全ての罪を赦してくださり神様の子になったのは主の恵みです。日々主が下さる使命をしながら天国に入りたいです。天国に行って神様から褒め言葉と賞を受けるように主が私達の夫婦の残っている人生も喜び溢れるように導いてくださる事を信じます。

［信仰コラム］　何事も思い煩ってはならない

何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。
（ピリピ人への手紙，4:6~7）

“何事も思い煩ってはならない”と言うお言葉は誰にも当たるお言葉ではないです。 このお言葉は神様が聖徒におっしゃるお言葉です。 聖徒は神様が命ずるお言葉に対して弁解の余地がありえないです。 神様が私たちに何事も思い煩ってはならないとどやしつけるのではないです。 神様は私たちに 何事も思い煩ってはならなくてもいい理由とその対策をおっしゃってくださいました。

第一に、切実に祈りなさいと言いました。
しばしば長期の間に心配するのは私たちから多くのものを奪います。 思い煩うことは自分を残酷に刑罰することのようです。 気づかわずに祈りなさいというお言葉は思い煩う代わりに祈りなさいという意味です。神様が私たちが切に求める祈りをきくとこまごま繰り返しておっしゃいました。 私たちの都合と事情を申し上げる所があり訴えを聞き入れる方がいらっしゃるという事実だけでも祈る者には大きい慰労と力になります。 祈りは神様に心配の荷物を預ける卓越な方法です。 心配が心を押さえ付ける時には ‘祈ることができるのにどうして心配するのか’という賛美を呼んで、そして実際に神様に祈ってください。

二番目で、“ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげなさい”と言いました。
このお言葉は祈りの回答を確信しながら祈りなさいという意味です。 神様が最上の時に最善の方法に回答してくださることを信じるようになれば感謝することで祈るようになります。 神様は全知全能なさいます。神様は私たちの祈りを回答なさるにあって最上の時と最善の方法をすべて分かります。 このような神様を思いながら祈りで心配すべきを申し上げる時に感謝することで申し上げることができます。 感謝することで申し上げることは神様に心配を徹底的に任せてしまう姿勢です。 祈りは祈りどおりして心配は心配どおりする二重的な態度を捨てなければなりません。

“神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。（ペテロの第一の手紙，5 :7） この勧告するというお話は面倒を見るという意味です。
三番目は、“そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。”と言いました。
すべての心配を神様に祈りで申し上げて求めることを感謝することで申し上げれば神様の優先的な回答は心に平安が臨んで来て世の中が与える平安のようではないです。 ‘人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安’ と言いました。 これは筆舌で表現することができない以上の平安、すべての理解を超越する平安 、人の心と思わなかった平安という意味です。理的に計算しては到底に平安ではないのに実際に心に奇妙な平安を神様がくださる ‘神様の平安です。 自分の心でも自分の意志のどおり治められるのではないです。 ところで自ら自分の心を治めることができない場合でも神様の平安が私たちの心を守って治めてくだされば本当に平安を享受することができます。 心の平安は祈りの実です。 祈りと懇求で心配を神様に任せる者にくださる贈り物です。 心配になる問題が解決される前にまず神様の平安を贈り物で与えます。神様の平安が心に臨んで神様の手に問題が任せられたことを意味します。 神様の手に問題が移されたしもう神様がその問題を扱うという青信号です。

小さなきつねがぶどうの農園を歩き回るようになれば結局はそのぶどうの農園全体がすべてあばらになってしまいます。 本文のお言葉は害虫のようで小さなきつねのような心配を片付ける秘訣です。 今日の私たちが当面した現実には多くの困難があります。 心配が絶えずに出てきます。 本文のお言葉はこのような私たちのためにくださった神様の愛と恵みのお言葉です。 このお言葉どおり行って神様の平安が皆さんの心にあって問題を解決してくださる神様の面倒と手助けを常に体験するように願いします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

天国の秘密

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

“天国の秘密”はとてもおもしろい主題です。天国については誰も聞き取り願います。 しかし神様がおっしゃらなければ天国の秘密は誰もわからないです。 イエス様は天国の主権者です。 だから天国の秘密をおっしゃることができます。イエス様が弟子におっしゃった天国の秘密がマタイによる福音書 13 章に記録されました。 この時間は聖霊様の教えることと助けることで “天国の秘密”を明らかに悟るようになって天国に対する所望と信仰が豊富になるように願います。 マタイによる福音書 13 章にイエス様が啓示なさった天国の秘密は四つの部類で分けることができます。

第一は、“ 種まきの比喩”に天国の秘密が啓示されました。

神様のお言葉は種で人の心は畑です。 四つの種類の畑があります。 1) 道ばたにまかれたものような心があります。 頑固な心です。 人間の思想と哲学で押し堅められていて天国福音がまかれるひまがないです。 2) 石地にような心があります。 忍耐することができない心です。 患難や逼迫を耐えることができなくて信仰を捨てます。 3) いばらの中にまかれたもの畑のような心があります。 世の中ものなどにとらわれすぎる心です。 世の中ものなどによって誘惑を受けて、世の中のによる心配が信仰の成長を阻んでしまいます。 4) 良い地にまかれたものとは 沃土のような心があります。 壊れて低くなった心で天国福音を受けて屈強な信仰を持つようになります。 そしてお言葉による結実をします。 神様のお言葉は天国福音です。 天国は神様のお言葉を心に受けてそのお言葉をそのまま信じて最後まで信じる者が入って行く所です。

二番目は、“一粒のからし種の比喩”と “パン種の比喩”に天国秘密が啓示されました。

からし種はとても小さな種だがすべて伸びれば 3.7m 以上になります。 空中の鳥がその木に宿るようになります。 パン種はパウダーを練った所に入れれば全部脹れさせます。 この二つの比喩は天国福音を信じる人はどの所へ行っても福音を伝えて多くの人を天国民にならせることを意味します。 パレスチナのエルサレムで伝えた天国福音が 300 年ぶりにローマ帝国の全体に及ぶようになりました。今日の全世界に伝えました。 信仰を持った初期には自分の信仰も維持しにくいくらいであった信者がますます信仰が育って幾多の人々を天国で導くようになります。他の信者が奉事することを不満に思ったか弱い信者が信仰が育って熱心を出して聖徒を仕える事をするようになります。

天国福音を信じる人は日増しに神霊な知識が加えられます。そして天国福音のために苦労するとか苦難にあえば永遠な光栄と賞が加えられます。 コリント人への第二の手紙, 4 章に記録されるのを “だから、わたしたちは落胆しない。たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。わたしたちは、見えるものにではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。”(コリント人への第二の手紙, 4 :16～18) しました。 世の中の人は一生の間に部分的には発展して向上しても総体的には下り坂にあります。 結局滅亡に至ってしまいます。 天国を向けて行く聖徒は部分的には衰退を見せる場合があっても総体的に発展して向上します。

三番目は、“ 畑に隠してある宝” 比喩と “高価な真珠” 比喩に天国の秘密が啓示されています。

この二つの比喩は天国福音の真正な価値を見つけるようになった人の生の態度がどのように変化されるかをおっしゃっています。 畑に隠された宝の比喩は案外に宝を見つけるようになった人に関する話です。 この比喩は私たちには変に聞こえるかも知らないがイエス様の当時パレスチナに暮す人々にはとても自然なのでした。 パレスチナは戦争が頻繁で戦争が近付けば人々は逃げだす前にいつかはまた戻って探すようになることを望んで自分たちの貴重な品物を地の中に葬るのが通例でした。 貴重な宝物を地の中に葬って戦乱を避けて住まいを移した人が死ぬようになるとかとりこになって永遠に帰って来ることができない場合も生じます。こんな事情によって地を借りて耕作している途中に偶然に主人ない宝を見つけてもうけ物をとる事があります。 それではうわさを立てないでその地を買い入れます。 貧土に違いない地を買い入れることを他人の見る時は理解ができないだろう。 しかし宝を見た人は喜びを抑制しながら自分の財産を売ってその地を買い入れます。 良い真珠を得るために労力して通う商人が極めて貴い真珠に会えば自分の所有を売り切ってもその真珠を持ちます。 この比喩は生の真正な理由と価値を探している途中天国の福音を接するようになった人を示しています。

案外に宝を見つけた人でも手まめに探してから見つけた人でも彼らはまことらしくて永遠な価値と意味をその中で見つけたからすべてのものを売ってこれを買いました。 畑に隠されている宝を見つけた人と貴い真珠に会った商人がそれを得るために自分が持っているすべてのものを売ったということは今まで貴重に思ったことをあきらめて捨てたことを言います。 天国を企業で受けたことが分かるようになった人の喜びは極めて大きいです。 天国の価値を思えば天国をくださった神様を仕える事にどんな犠牲を支払っても惜しくないです。 人が最上の価値を追い求めている途中これに会えばそれを所有するために他のものは喜んであきらめるようになります。 自分が持った宗教や思想や哲学をきっぱりと投げ捨てます。すべてのものを売ったということは天国で得るようになる称賛と光栄と尊貴のために他の手段にするようになったということを意味します。

世の中の地位、名誉、権勢、物質を天国で神様の前に立つ時受けるようになる称賛と賞を得るための道具と手段で思うようになります。天国を所有するようになった喜びを持った人は試験に入ったと言う事が消えます。 主の仕事に力をつくすことを大きい光栄であり特権で思います。 主のために歳月を惜しみます。

四番目は、“畑の 毒麦 ” 比喩と “魚の選別”の比喩に天国の秘密が啓示されています。

この二つの比喩は必ず近付く神様の審判があるのを言ってくれます。 そして天国で住むようになる人と地獄に投げ込まれる人が区分されることを言ってくれます。 畑の毒麦の比喩は今はクリスチャンではない人もクリスチャンのように行いすることができるが将来は必ず分離する日が来ることを知らせてくれます。 畑に小麦をまかれば小麦だけのではなく毒麦も伸びます。 毒麦は毒素を抱いている毒麦です。小麦や麦の畑でのに粒だけちょっと浅黒いから伸びる間には分別しにくいです。 しかし穂が生るようになれば易しく分別になります。しかし小麦と毒麦の根がお互いに練れているから毒麦を抜けば小麦も抜かれる恐れがあります。 だから仕方なく秋収の時まではほったらかしておくようになります。 秋収の時小麦をおさめて倉庫に入れて毒麦は集めて燃やします。 世の中には真実の信者と似以非信者が混ざっています。農夫が毒麦をまかれたのではないのに毒麦は雑草のように生えます。 似以非信者にはサタンが介入して教会に浸透させます。 真の信者と似以非信者を分別することは易くないです。速断しないようにしなければなりません。 しかし日増しに区別しやすくなります。 個人のみを見ては区別が難しくても彼が属した組織と団体は易しく分別になります。

似以非であるという組織と団体はある期間が経てばその性格が明らかに現われます。 最後の審判の時にせ物はこうという徹底的に区分して処理されます。 畑の毒麦の比喩は今はクリスチャンではない人もクリスチャンのように行いすることができるが将来必ず分離する日が来ることを言ってくれます。

魚の選別の比喩も毒麦比喩とともに必ず近付く神様の審判があり最終的選別と分離があることを知らせてくれます。 魚を釣りで取らないで網を投げて取ればあらゆる魚が一度にすべてつかまります。 漁夫は網を海辺で引っ張り出した後自分が願うものだけ選別して食器に盛って他のものは出してしまいます。 このように不信者は徹底的に選別されて地獄の刑罰に処するようになることを知らせてくれます。 天国に入るようになる人と地獄に入るようになる人の区別と最終的分離に対するメッセージです。世の中では地位、権勢、名誉、物質、外見、能力、人柄が人を分別する基準になるが天国では選別基準になれないです。 クリスチャンなのかないか、他に言って生まれかわったかないかすることだけが選別基準になります。

イエス様が七つの比喩を通じて公開してもらった “天国の秘密”をきいて悟る皆さんはまことに幸いがあります。 皆さんは “天国秘密”を悟るようになった喜びが充満して天国福音を広く伝えながら生きて行くように願いします。